

業界の洞察

アグリビジネス、 食品・飲料（F&B） Dealtracker

2023年5月



キャメロン・ベーコン

GTオーストラリア
パートナー、財務アドバイザー

過去18ヶ月間世界経済に大きな逆風があるにもかかわらず、アグリビジネス、食品・飲料(Ag・F&B)セクターのM&A案件全体の活動水準の一貫性を目の当たりにしてきました。

2022年12月までの18ヶ月間に、Ag・F&Bセクターの1466件のグローバル取引を分析した結果、案件活動は依然として一貫しており、ディール・マルチプルは依然として堅調に推移しています。しかしながら、ディール件数は依然としてパンデミック前の水準を下回っており、半期ごとの取引量の変動は、企業による慎重な投資への姿勢を示唆していると言えます。

本レポートで明らかにし、参入した主なトレンドは次のとおりです：



セクター間のディールマルチプルは、世界市場指数が下落したにもかかわらず、18ヶ月間、堅調に推移 (9.9倍)。



世界で73件のIPOが今期に計上され、Dealtrackerが2011年に始まって以来、18ヶ月間で2番目に多いIPOを記録。



オーストラリアは取引量で世界第5位、期間中の取引件数は67件と、過去15年間一貫して順位を維持している。



世界のIPOの77%はアジア太平洋地域で発生 (当該期間の同セクターで獲得したインドネシアのIPO17件と中国のIPO16件)。



2022年12月31日現在の18ヶ月間では、獲得したグローバルM&A案件(1466件)は、前18ヶ月間(1414件)に比べて3.7%増加。



今期の2件のIPOによって生み出されたオーストラリアでのIPO資金 \$ 3,800万は、海産物と養殖業が要因となった。



当該18ヶ月間の世界の取引高は、歴史的な期間で約10%減少している。



今期、オーストラリアの事業の少なくとも73%は国内の買い手によって買収され、残りの買い手はヨーロッパ、アジア太平洋、アメリカ、カナダ、ラテンアメリカ、カリブ海からであった。



海鮮・水産養殖業は、オーストラリアにおける2大M&Aと主要なグローバル/オーストラリアのIPOを占めており、今後、世界の食糧の量と安全保障において海産物・水産養殖業が果たすべき重要な役割を強調している。



投資マネージャー (IM) はこの18ヶ月間、非常にアクティブであった。2021年は平均を大きく上回っており、18ヶ月の期間は長期平均と一致している。

今後は、炭素排出量を削減しながらオーストラリアの食料供給を確保しようとする政府投資の増加を活かし、食品製造と食品廃棄物の最少化が投資活動の勝者となるでしょう。

買い手であれ売り手であれ、本レポートは貴社が市場に即応し、Ag・F&Bセクターの機会を最大限に活用できるようにするための貴重な洞察とサポートを提供するためのツールです。

本レポートでは、2021年7月1日から2022年12月31日(現在の期間)までのアグリビジネス、食品・飲料(Ag、F&B)セクターにおけるM&A(合併・買収)と株式市場活動を検証する一方、当社の以前の版(過去の期間)は2011年1月1日から2021年6月30日までの10.5年間を対象としています。

また、本レポートのデータは、S&P Capital IQ、オーストラリア証券取引所、Mergermarket、IBISWorld、会社発表、その他の公開情報を含むいくつかの情報源から作成しました。

最近のAg・F&Bセクターのデール活動に関する包括的な洞察を提供するために、独自の情報源で補完されたこの連結マルチソース分析を考察しました。





目次

投資のテーマ	5
売買・取引マルチプルのまとめ	7
M&A取引: グローバルAg・F&B案件数	8
オーストラリアにおけるM&A:サブセクター構成	11
グローバル案件トップ10	13
オーストラリア案件トップ10	15
投資家と買い手のプロフィール	17
グローバル案件・取引マルチプル	23
新規株式公開 (IPO) 活動	27
グローバルIPO上位10銘柄	29
オーストラリアのIPO	31
世界市場の視点	33
12年間の遡及:グローバルAg・F&Bディールの概要	35
GTオーストラリアについて	37
連絡先	38



対象会社の主要サブセクターをS&P Capital IQ に沿って分類し、取引について検討しました:



パッケージ食品・食肉

乳製品、果汁、肉、鶏肉、魚、ペットフードなどの包装食品の生産者。



農産物

農産物の生産者。農作物生産者、農園の所有者、および食品を生産し加工する企業を含む。「生活資材・食肉」サブセクターに分類された食品を、「生活資材」サブセクターに分類され、包装し、販売している企業を除く。



醸造者

ビール・モルト酒類の生産者。外食産業に分類されない醸造所を含む。



蒸留&ワイン醸造者

醸造者サブセクターに分類されていないアルコール性飲料の蒸留、ワイン醸造者および生産者。



清涼飲料

ミネラルウォーターを含むノンアルコール飲料の生産者。「パッケージ食品」サブセクターに分類される牛乳の生産者を除く。

S&P Capital IQが、取引の買収者/ベンダーに投資マネージャー(IM)が含まれていると指摘した場合、IMを含む取引を識別するために、報告書全体を通して以下を使用しました。



投資マネージャー (IM)買収

IMによる事業買収または事業出資



投資マネージャー(IM)売却

IMによる事業売却または出資のエグジット

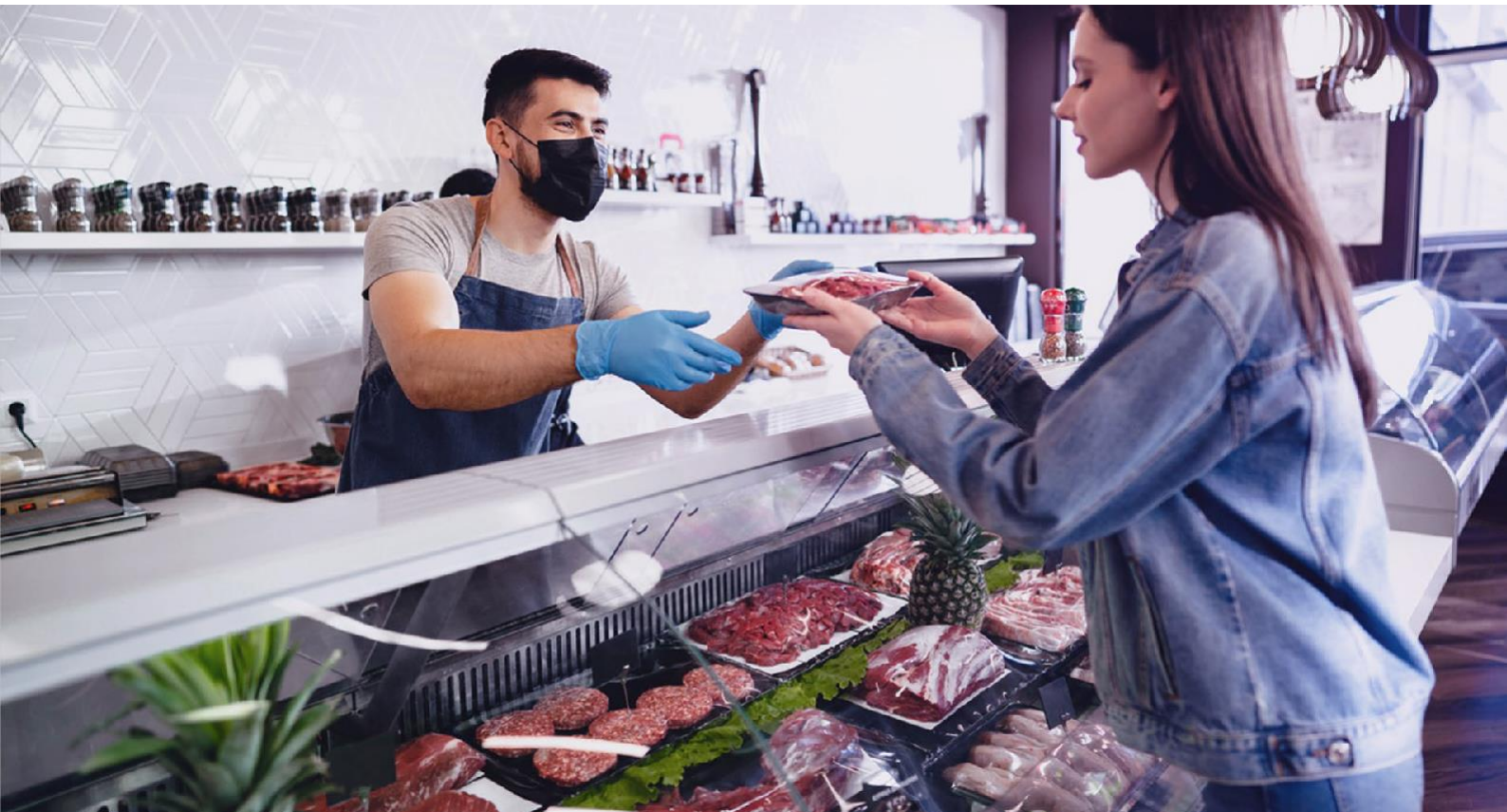
投資のテーマ

Ag・F&Bセクターは、近年、業界やその参加者から期待される強靱性を示しています。主要生産地域での国際紛争、世界的なサプライチェーン問題、主要な気象事象、貿易戦争、ハイパーインフレーションなど、このセクターに見られる困難な経済状況には多くの要因が寄与しています。これらの課題にもかかわらず、Ag・F&Bセクターは、世界市場の広範な下落とその後の取引倍率の減少にもかかわらず、取引マルチプルを維持してきました。

Ag・F&Bのミドル市場(\$20mから\$100mの間のデール)は、総取引の割合として増加しています。これは、世界的な経済的不確実性の増大により、投資マネージャー（IM）が初期段階への投資意欲を失ったり、未確認の事業(\$2,000万以下の企業価値)に投資する意欲を失ったりしてきた市場動向と一致しています。それに比べて、国内の一次生産者、AgTech社、地元の製造業者の関心が高まっています。

最近の国内および世界の金利上昇はメガデールの案件数に影響を与えており、貸し手は大規模な(\$500m+)取引に対してより確実な収益を要求しています。

オーストラリアのAg・F&Bセクターは引き続き国内外の買い手にとって魅力的な投資機会となっています。オーストラリアは世界市場においても重要なプレイヤーであり、AgTechの発展と生産効率の向上を通じて、世界の食料安全保障を長期的に確保する機会を提供し続けているのです。



コロナ前

2018～2019年



コロナ前の投資テーマ：

- 発掘/サプライチェーンの完全性
- 利益率の高いフード&ビバレッジ製品
- 健康食品・食品代替
- 保護作付
- 垂直統合
- 一次生産へのインプット(すなわち、原料飼料、灌漑、農業)
- 輸出準備/輸出可能
- ジン/ウイスキー
- クラフトビール

パンデミック中

2020～2021年



パンデミック期間中の投資テーマ：

- サプライチェーンの安全確保とコスト保護
- 自社・国内生産
- 主食・商品
- 景気対応資産(一次生産)
- 国内重点消費
- 現地製造業の新たな焦点

ポストコロナ

2022～2023年

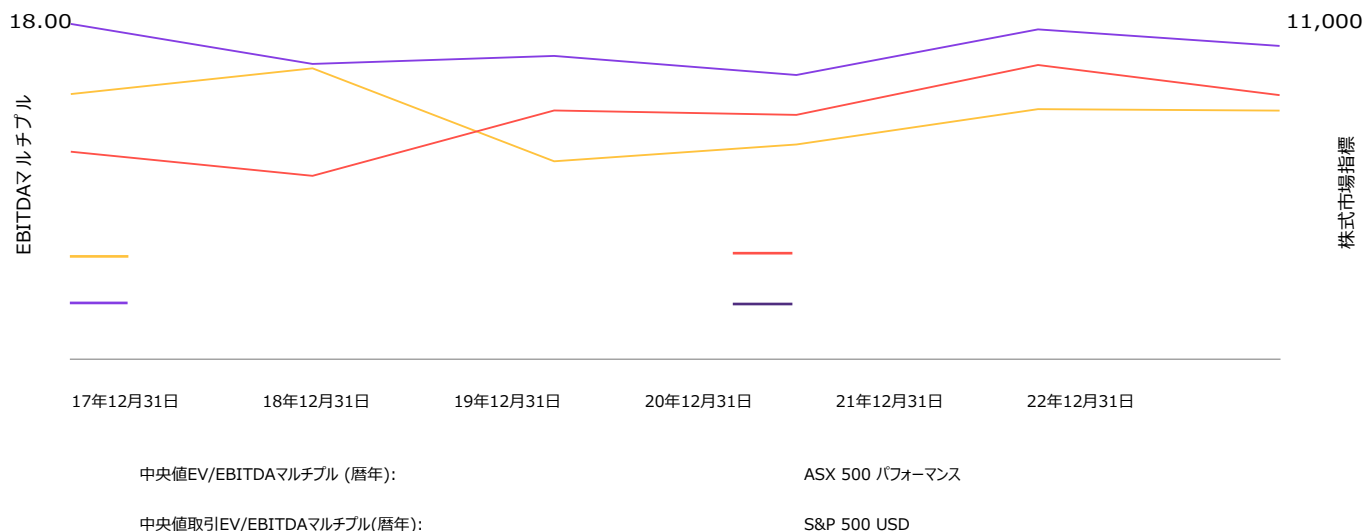


「ニューノーマル」ポストコロナ経済における投資テーマ：

- Ag・F&Bセクターにおける回復力のある取引と取引マルチプル
- 確立された動物蛋白質に対する希望は依然として強い
- 重要性が増すサステナビリティ
- ESGは現在、ほとんどの企業によって注目されている
- カーボンニュートラル、生物多様性重視のビジネス
- 非食肉蛋白代替品が開発を続ける
- AgTech社(すなわち自動化、気象分析、疾病検出)
- オーストラリアのクラフト・醸造市場における苦悩
- 賃金、電力、ガス、燃料、肥料などの投入材などのコスト圧力の高まり
- ミドル市場における案件の比率が高い
- サプライチェーン問題の継続と全国販売への注力の強化
- バイオ燃料機会

売買・取引マルチプルのまとめ

Ag・F&Bディールと取引マルチプル



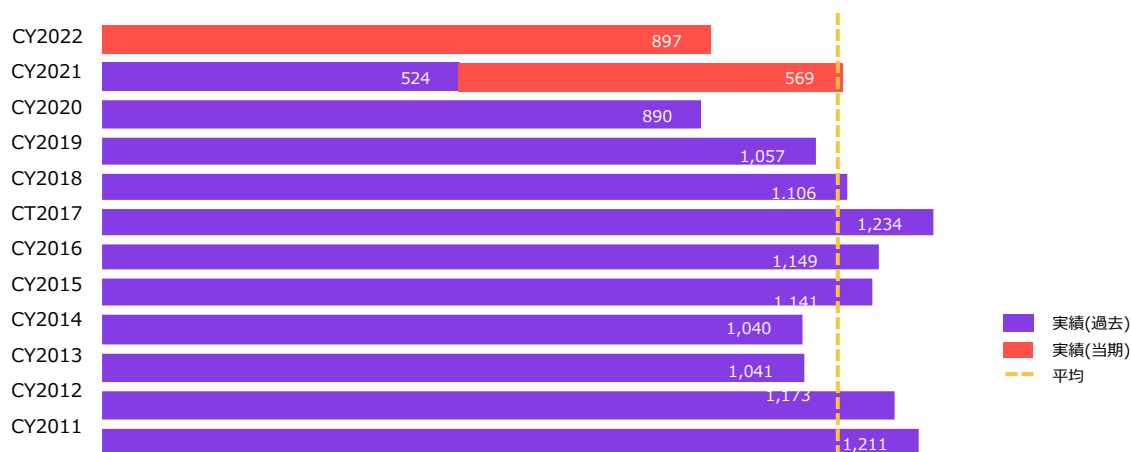
バリュエーション・マルチプル: 案件 v トレーディング

	17年12月31日	18年12月31日	19年12月31日	20年12月31日	21年12月31日	22年12月31日
案件EV/EBITDAマルチプルの中央値	10.48	11.45	7.98	8.61	9.92	9.87
トレーディングEV/EBITDAマルチプルの中央値	13.10	11.60	11.90	11.20	12.88	12.27
ASX 500	6,167	5,716	6,936	6,851	7,779	7,222
S&P 500米ドル	2,676	2,486	3,240	3,756	4,766	3,840

- 2019年12月までの期間に明らかに見られた「過剰修正」からの着実な増加を受けて、案件マルチプルは過去18ヶ月間安定してきた。
- 案件マルチプルの安定性は、商品価格の変動にさらされているにもかかわらず、他の投入材コストや包装コストとともに、その不安定性は産業の本質的な性質とその長期的な成長・開発機会によって緩和されていることを実証している。
- Ag・F&Bセクターの収益性の高いASX上場企業のトレーディング・マルチプルは、全般的な世界経済状況や最近のインフレ環境にもかかわらず、過去18ヶ月間、より広範なASX 500指数、S&P 500指数を上回っており、同セクターの回復力を示している。

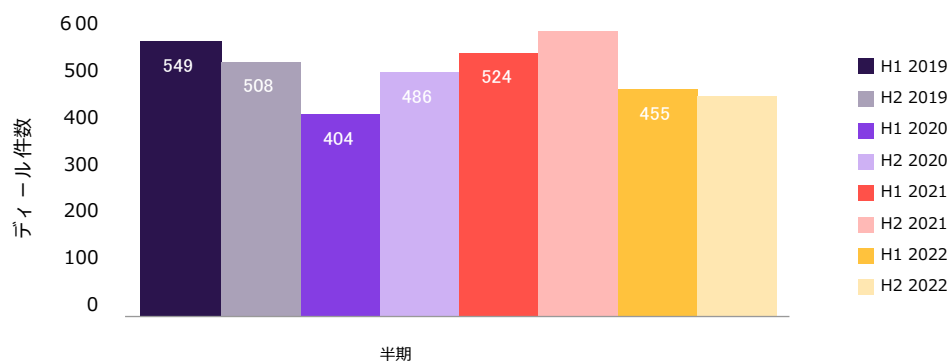
M&A取引： グローバルAg・F&B案件数

ディール活動の推移(暦年)



当期の地政学的環境、異常気象、パンデミックによる継続的な影響の結果、取扱量は長期の18ヶ月平均を10%下回った。

グローバルM&Aの半期推移(HY)



半期ごとのディール件数データでは、2021年下半期の取引高のピークを受けて、2022年下半期と2022年下半期の取引高が修正されたことが示されている。2021年度下半期の取引高は、2017年度以来の6ヶ月間の取引高で最も多かった。

当期の世界のM&A動向：国別

国	当期	順位	%	前期	順位	%	取引高変化%	
							当期	v 前期18ヵ月平均
米国	442	1	30	2,974	1	26		4
英国	118	2	8	796	2	7		4
フランス	108	3	7	732	3	6		3
カナダ	87	4	6	419	7	4		45
オーストラリア	67	5	5	589	4	5		(20)
スペイン	64	6	4	467	5	4		(4)
イタリア	57	7	4	292	10	3		37
ロシア	37	8	3	437	6	4		(41)
インド	35	9	2	213	14	2		15
オランダ	31	10	2	253	12	2		(14)
トップ10	1,046		71	7,172		62		2
その他	420		29	4,394		38		(33)
合計	1,466		100	11,566		100		(11)

取引活動の傾向



取引高:

オーストラリアは、取引高の世界ランキング上位5位に位置し、67件(グローバル取引高量総数の5%)となった。



1,466件のデールは期中に発生し、長期平均の1,629件をおおよそ10%下回る。



2022年度の取引高は、長期平均と比較すると、次のような世界的な課題を反映している:

- 地政学的緊張は、特にロシアと中国の世界的な大国を巻き込んで、このセクターにおけるグローバル化と自由な国際貿易の進展を混乱させた。このため、買収を目指す多くの投資家や企業に不透明感が生じている。
- 干ばつや洪水など、世界中で深刻な気象現象が起きると、多くのサブセクターで収益や商品価格の変動性が高まり、投資家の投資意欲が低下している。

- 世界的なコストの上昇は、多くの事業の利益率を低下させるインフレ圧力を引き起こし、その結果、魅力的な販売機会が減少した。

- 米国は、世界のAg・F&Bデール市場において引き続き世界的リーダーであり、18ヶ月間に世界の取引の30%を記録し、他のどの国の3倍以上の取引高を記録している。

取引額:



この期間、開示された案件の総額は\$99 bで、平均を20%下回り、長期平均の\$151 bを34%下回った。



18ヶ月間の取引総額は、過去5ヶ月間の取引総額を上回る割合で減少しており、これは「メガ・デール」のトップエンドが少なかったことを反映している。

オーストラリア案件の取扱高別内訳

オーストラリアの取引額範囲	当期	前期	当期%	前期%
ミドル企業向け商談(1億ドル未満)				
2000万ドル未満	11	165	38%	53%
2000万~5000万ドルの間	6	52	21%	17%
5000万~1億ドルの間	6	31	21%	10%
中堅・中小企業取引計	23	248	79%	79%
中堅・大企業取引(1億ドル超)				
1億~2億ドルの間	2	24	7%	8%
2億~5億ドルの間	2	24	7%	8%
5億~10億ドルの間	1	7	3%	2%
10億ドル以上	1	9	3%	3%
中堅・大企業取引計	6	64	21%	21%
公開ディール計	29	312	100%	100%
未公開	38	277		
合計(非公開含む)	67	589		



オーストラリアの取引の79%(\$100m以下)は、中小企業が占めており、歴史的平均と一致していた。



オーストラリア案件の42%がミドル市場の\$20m-\$100mであった。これは、過去平均の27%からの増加である。これは、中規模ディールの増加と、ミドル市場ディール活動の増加を示している。



サプライチェーンの問題は、当期間中に材料のコストの大幅な増加を引き起こし、多様化する収入の流れと規模を通じてコストを吸収する利点を持たなかった一部の小規模事業者(\$20m未満)に影響を与えた。

ディール：売却形態別

オーストラリアの売却形態別案件

セキュリティの種類	当期	前期	当期%	前期%
資産	18	271	27	46
株式	49	318	73	54
合計	67	589	100	100



株式(シェア)売却は、引き続きグローバル案件の主要なタイプ(83%)となっている。



株式(シェア)売却は、世界的にもオーストラリア内においても、過去の期間よりも当期の案件の比率が著しく高かった。



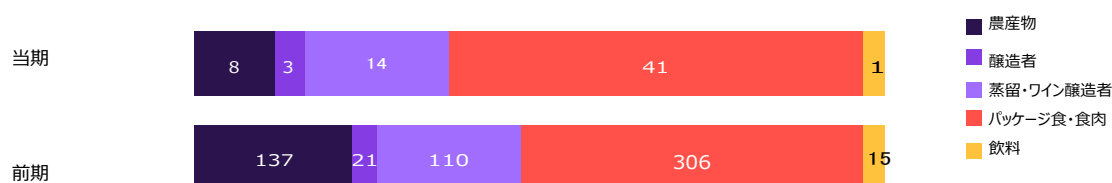
資産売上高はディールの比率として減少し、資産売上高である\$20mを下回る少額の取引とリンクしている可能性が高い。

売却形態別グローバル案件

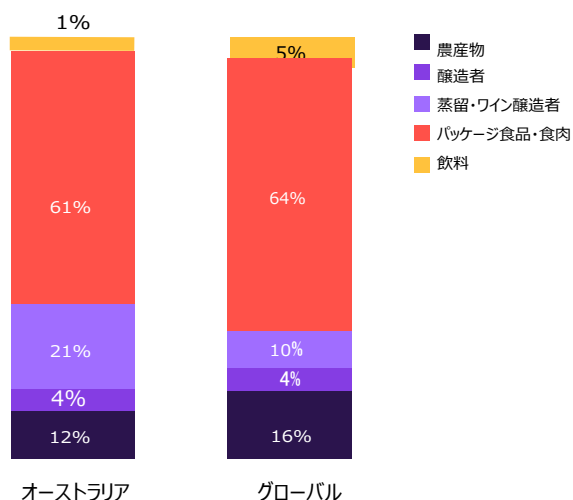
セキュリティの種類	当期	前期	当期%	前期%
資産	245	3,013	17	26
株式	1,221	8,553	83	74
合計	1,466	11,566	100	100

オーストラリアにおけるM&A： サブセクター構成

オーストラリアの取引高



セクターの比較：グローバル v オーストラリア



オーストラリア案件：サブセクター別 (18ヶ月間)

サブセクター	当期	前期	過去平均	当期%	前期%
農産物	8	137	20	12	23
醸造者	3	21	3	4	4
蒸留・ワイン醸造者	14	110	16	21	19
パッケージ食品・食肉	41	306	44	61	52
清涼飲料	1	15	2	1	3
合計	67	589	84	100	100

オーストラリアのAg・F&B資産は、国内産業および慣行の質、規模および評判により、引き続き世界で最も高く評価される資産の一部と見なされている。このセクターへの海外投資家の関心は次の買収に反映されている：カナダの海産物生産者クークによるTassalグループ (\$1,650m)の買収、ブラジルのタンパク大手JBSによるHuon水産養殖業グループ (\$721m)の買収、そしてミネルパ・フーズによるオーストラリア・ラム (\$400m)の買収である。



パッケージ食品・食肉:

- パッケージ食品・食肉への投資は依然として魅力的なサブセクターであり、今期のオーストラリアの取引の約61%を占め、前期から9%の増加となっている。
- オーストラリアの上位10件のディール取引の80%は、パッケージ食品・食肉のサブセクターにあった。
- オーストラリアのディール額の面では、海産物の生産者と加工業者が主な貢献者であった。Tassalグループの約\$1,650m規模の売却が最大の取引であり、次いでHuon水産養殖業の売却（\$721m）、西オーストラリアに拠点を置く漁業事業MG Kailis ホールディングス（\$70m）およびマックスフーズ（オーストラリア）（\$57m）の売却であった。



農産物:

- 18ヶ月の間に多くのオーストラリアの作物栽培地域で記録的な収量があったにもかかわらず、取引高は肥料等のコストの増加や不安定な輸出市場を含むいくつかの要因により減少した。
- 当期の農産物ディールのトップは、コスタ・グループによる\$200mのカンキツ生産者2PH農場の資産買収、ハーバード・マネジメントのプライム・ウェストによるNSW州のMooraにおける\$53.9mのアーモンド果樹園の買収であった。



醸造者:


- オーストラリアで歴史的に最大のAg・F&Bディールの一部に寄与している抽出セクターにもかかわらず（35ページに概説）、同セクターの案件数は全体の中で約4%にとどまっている。
- Fermentumの売却は、今期に行われた3件の公に発表された案件のうちの1件であり、この案件は開示されていないものの、買収額が\$500mを上回ったと報告されている。
- その他の重要なディールは、2021年7月にMighty CraftによるMismarch醸造の買収（\$47m）、2022年6月にダクストン・パブ・グループによるLittle Bang醸造の買収である。
- 当社では、規模の経済性を追求し、大規模なビール会社グループと競争するために、小規模なビール会社が規模を拡大しようとしていることから、多数の潜在的な小規模なクラフト・ビールの取引があることを認識している。
- 2023年1～3月期には、クラフト・ビール業界に困難の兆候が見られ、有名なオーストラリアのビール会社、トライブ醸造、バリスティック・ビールが倒産手続きに入った。
- このサブセクターは、ポストコロナに会場でのケグ販売の回復が遅れていることや、生産および包装コストの増加など、依然として強い逆風に直面している。





蒸留&ワイン醸造者:


- 上位案件には、ワカリ・アセットマネジメントがジョゼフ・クロミー・ワインを\$55mで買収したことや、Bellevue農場を未公開の地元ワイン生産者に売却したことなどが含まれる。
- 中国の貿易禁止を含むいくつかの課題に直面しているにもかかわらず、蒸留&ワイン醸造者サブセクターは、Ag・F&Bセクターでの地位を維持しており、これはオーストラリアの取引の約20%に相当する。

グローバル案件トップ10

1 	対象企業:	BAスポーツ・ニュートリション
	対象業種:	清涼飲料
	対象国:	米国
	買収側:	コカ・コーラ
	買収国:	米国
	取引金額(A\$m):	7,115
	決算日:	2021年11月1日
	EV/EBITDA:	非開示

2 	対象企業:	イーカテラB.V.
	対象業種:	パッケージ食品・食肉
	対象国:	オランダ
	買収側:	CVCキャピタル・パートナーズ株式会社
	買収国:	英国
	取引金額(A\$m):	7,030
	決算日:	2022年7月1日
	EV/EBITDA:	14.30 (非開示-公表収益ベースの推計マルチプル)

3 	対象企業:	サンダーソン農場
	対象業種:	パッケージ食品・食肉
	対象国:	米国
	買収側:	カーギル社
	買収国:	米国
	取引金額(A\$m):	5,998
	決算日:	2022年7月22日
	EV/EBITDA:	12.91 (公表決算ベースのマルチプル)


	対象企業:	トロピカーナ/ネイキッド・ジュース・カンパニーおよびその他の北米全土セレクト・ジュース・ブランド
	対象業種:	パッケージ食品・食肉
	対象国:	米国
	買収側:	PAIパートナーズ
	買収側国:	フランス
	取引金額(A\$m)	4,743
	決算日:	2022年2月1日
	EV/EBITDA:	非開示


	対象企業:	クラブ・ハインツカンパニーのナチュラルチーズ事業
	対象業種:	パッケージ食品・食肉
	対象国:	米国
	買収側:	乳酸菌群
	買収国:	フランス
	取引金額(A\$m):	4,386
	決算日:	2021年11月29日
	EV/EBITDA:	16.43 (非開示-公表収益ベースの推計マルチプル)

	対象企業:	クリフ・バー & カンパニー
	対象業種:	パッケージ食品・食肉
	対象国:	米国
	買収側:	モンテレス・インターナショナル
	買収国:	米国
	取引金額(A\$m):	4,158
	決算日:	2022年8月1日
	EV/EBITDA:	非開示

7  	対象企業:	Etablissements J. Soufflet SA
	対象業種:	農産物
	対象国:	フランス
	買収側:	Union InVivo - Union de Coopératives Agricoles
	買収国:	フランス
	取引金額(A\$m) :	3,234
	決算日:	2021年12月9日
	EV/EBITDA:	8.5

8 	対象企業:	CHIPITA SOCIETE ANONYME 産業商業
	対象業種:	パッケージ食品・食肉
	対象国:	ギリシャ
	買収側:	モンデレス・インターナショナル
	買収国:	米国
	取引金額(A\$m) :	2,682
	決算日:	2022年1月3日
	EV/EBITDA:	非開示

9 	対象企業:	キュレイン石油化工有限公司
	対象業種:	パッケージ食品・食肉
	対象国:	クウェート
	買収側:	クウェート・プロジェクトズ・カンパニー・ホールディング株式会社
	買収国:	クウェート
	取引金額(A\$m) :	2,428
	決算日:	2022年11月23日
EV/EBITDA:	17.1	

10 	目標値:	ノルウェー・ロイヤルサーモン AS
	対象業種:	パッケージ食品・食肉
	対象国:	ノルウェー
	買収側:	SalMar ASA
	買収国:	ノルウェー
	取引金額(A\$m) :	2,142
	決算日:	2022年11月7日
	EV/EBITDA:	18.0

- コカ・コーラ（アメリカ）は、BAスポーツ・ニュートリションを\$7.115bで買収し、世界最大規模の買収を手掛けた。コカ・コーラ・ユーロパシフィックによるコカ・コーラ・アマティルの\$9.65bの買収は、前期Ag・F&B Dealtrackerの最大の案件だった。
- 米国は世界のトップ10社のうち6社に関与し、次いでフランスが世界のトップ10社のうち3社に関与した。
- モンデレス・インターナショナルは、複数の案件に関与する唯一の買収企業として、世界の案件トップ10に入る他の買収企業の中で際立っていた。クリフ・バーに加えて上述の取引の概要は、モンデレスはメキシコの菓子会社Grupo Bimboを2022年に\$1.86bで、オーストラリアのマックス・フーズを2021年11月に\$57mで買収したことがある。
- 当期でも最も活発に買収したのは、カナダに上場し本拠を置く特殊食品製造・流通会社のプレミアム・ブランド・ホールディングズで、この期間に6件の買収を行った。
- その支配的地位を示すものとして、サブセクターのパッケージ食品・食肉は、トップ10件のうち8件を占めた。清涼飲料と農産物はそれぞれ上位10位に1件ずつ取引があった。
- IM活動は、トップ10案件に2件のエグジット(サンダーソン農場と Etablissements J. Soufflet SA)と2件の買収(イーカテラB.V とトロピカーナ)であった。以前の期間では、通常3~4件のIM買収と2~3件のIMエグジットがトップ10案件に含まれていた。

この活動により、同社は、当該期間において6番目に活発な買収者と位置づけられる。

オーストラリア案件トップ10

1 	対象企業:	Tassalグループ
	対象業種:	パッケージ食品・食肉
	対象国:	オーストラリア
	買収側:	養殖オーストラリア
	買収国:	オーストラリア
	取引金額(A\$m):	1,649
	決算日:	2022年11月9日
	EV/EBITDA:	7.8

2 	対象企業:	Huon水産養殖グループ
	対象業種:	パッケージ食品・食肉
	対象国:	オーストラリア
	買収側:	JBSオーストラリア
	買収国:	オーストラリア
	取引金額(A\$m):	721
	決算日:	2021年11月3日
	EV/EBITDA:	10.3

3 	対象企業:	オーストラリア・ラム
	対象業種:	パッケージ食品・食肉
	対象国:	オーストラリア
	買収側:	ミネルパ・フーズ・オーストラリア
	買収国:	オーストラリア
	取引金額(A\$m):	400
	決算日:	2022年10月1日
	EV/EBITDA:	10.9

4 	対象企業:	2PH農場の事業と資産
	対象業種:	農産物
	対象国:	オーストラリア
	買収側:	コスタ・グループ
	買収国:	オーストラリア
	取引金額(A\$m):	200
	決算日:	2021年7月19日
	EV/EBITDA:	6.9

5 	対象企業:	リヴァレア/オックスデール乳業
	対象業種:	パッケージ食品・食肉
	対象国:	オーストラリア
	買収側:	インダストリーパーク
	買収国:	オーストラリア
	取引金額(A\$m):	175
	決算日:	2022年1月4日
	EV/EBITDA:	3.1

6  	対象企業:	ユーフーズ・ホールディングス
	対象業種:	パッケージ食品・食肉
	対象国:	オーストラリア
	買収側:	Cook E サービス
	買収国:	オーストラリア
	取引金額(百万豪ドル):	104
	決算日:	2021年10月13日
	EV/EBITDA:	非開示

7 	対象企業:	サラ・リー社のキッチン
	対象業種:	パッケージ食品・食肉
	対象国:	オーストラリア
	買収側:	OFBC社
	買収国:	ニュージーランド
	取引金額(A\$m):	95
	決算日:	2021年8月24日
	EV/EBITDA:	6.3

8 	対象企業:	MG Kailis ホールディングスの西豪州における漁業事業
	対象業種:	パッケージ食品・食肉
	対象国:	オーストラリア
	買収側:	SEA HARVEST
	買収国:	オーストラリア
	取引金額(A\$m):	70
	決算日:	2022年5月23日
	EV/EBITDA:	非開示

9 	対象企業:	マックスフーズ(オーストラリア)
	対象業種:	パッケージ食品・食肉
	対象国:	オーストラリア
	買収側:	非開示
	買収国:	米国
	取引金額(A\$m):	57
	決算日:	2021年11月1日
	EV/EBITDA:	非開示

10  	対象企業:	ジョゼフ・クロミー・ワインズ
	対象業種:	農産物
	対象国:	オーストラリア
	買収側:	ワラキ・アセットマネジメント
	買収国:	オーストラリア
	取引金額(A\$m):	55
	決算日:	29/4/2022
	EV/EBITDA:	非開示

- トップ10案件のうち、8件はパッケージ食品・食肉のサブセクター、2件は農産物のサブセクターであった。
- 食肉は強力な資産クラスであり続けており、オーストラリアではトップ3、トップ10のうち6案件となっている。
- 2大案件はオーストラリアの海産食品加工業であった。
- 水産養殖は成長を続けており、世界人口の増加を助ける重要な役割を果たしている。オーストラリアの案件トップ10のうち4案件を占めた。
- 買収の大半はオーストラリア国内であったが、これらの企業のうちいくつかはJBS、ミネルバ・フーズ、養殖オーストラリア、シー・ハーベストなど、外国資本が過半数を保有している。

- ユーフーズは、2020年12月の株式公開に続き、2021年7月にフェローマーケット「ハローフレッシュ」に買収された。ユーフーズはIPO株の\$1.50を上回る株価で取引されたことはない。

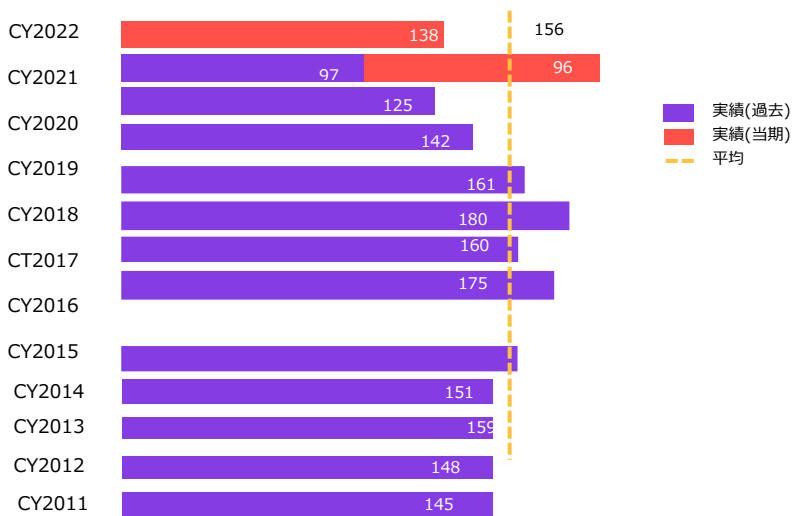
これらが期中の公表取引額の上位案件である。

GTオーストラリアは、オーストラリアの取引トップ10に入るような価値を持ついくつかの案件を認識しています。



投資家と買い手のプロフィール

グローバルIM活動



IM活動とは、金融機関の売り手と買い手が行うディールであり、通常はプライベート・エクイティ（PE）、ベンチャー・キャピタル（VC）、ファミリー・オフィス（FOS）、農業専門のファンド・マネージャーで構成される。

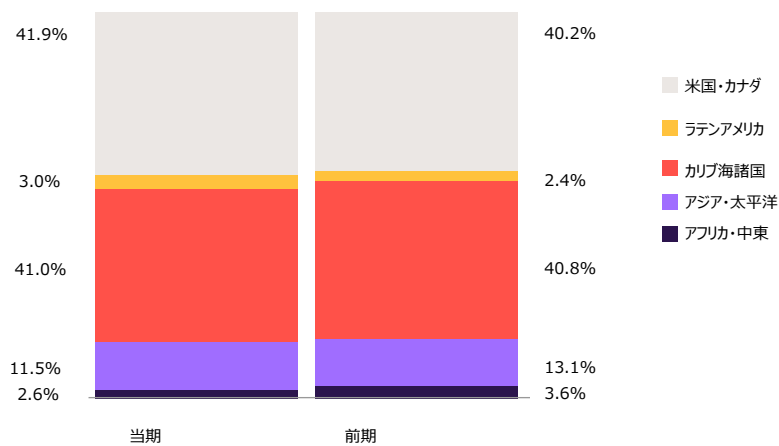
当期の世界のIM活動の記録件数は、過去18カ月間の平均である235件と一致し、18カ月間で合計234件となった。

現在のDealtracker期間中の234件のIM案件は、148件の買収と119件の売却案件であり、そのうち33件のIM案件は、IMの売り手と買い手の両方に関わっており、市場内での機会を示している。

このIMによる活動水準の増加は、将来の幅広い領域による活動の増加を示唆している可能性がある。



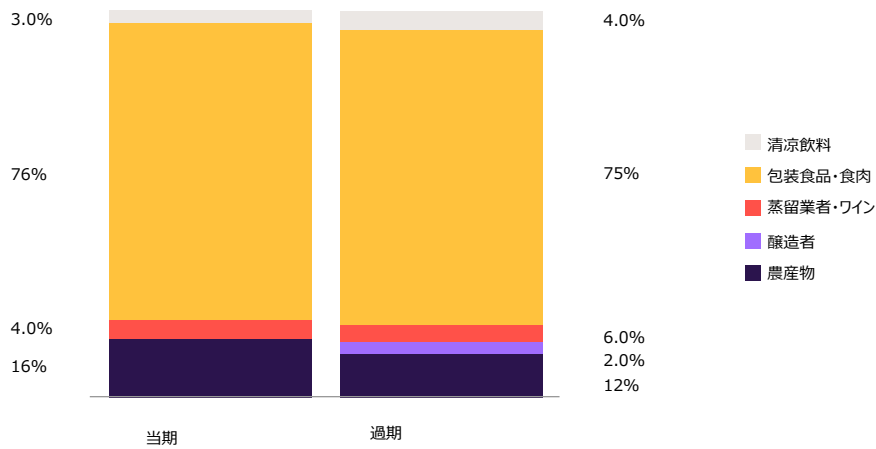
グローバルIM活動：地域別



IM案件の活動では、米国、カナダ、ヨーロッパが引き続き最も活発な地域であり、IM案件の80%以上を占めている。アジア太平洋地域では、IM案件の比率が過去の平均(13.1%)よりも低かった(11.5%)。



グローバルIM活動：サブセクター別



今期のIM支援案件は引き続きパッケージ食品・食肉分野に圧倒的に集中し、全世界のIM案件の76%を占めた。IMは通常、3~5年という中期的な成長軌道に乗った投資機会を求めており、パッケージ食品・食肉のサブセクターに属する企業に適した投資が完了した時点で撤退することを目指している。

IM案件は近年、世界のIM支援案件の16%を占めるなど、農産物をターゲットにする動きが広がっている。これは、投資期間が長いファミリー・オフィス型のIMが、農業会社に関連する季節的な気象リスクに甘んじていることも一因となっている。

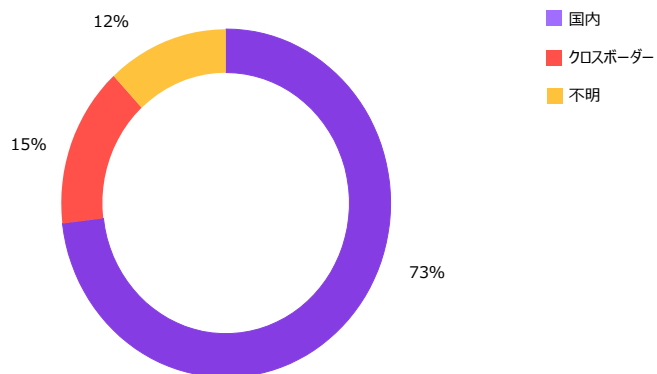


- オーストラリアは、アジア太平洋地域でIM案件を主導しており、今期のIM案件の33%を占めている。
- オーストラリアの資産は9件のIM案件に貢献し、そのうち8件が買収で2件が売却案件であった。これにはIMの売り手と買い手の両方が関与する案件(プライム・ウェストによるハーバード・マネジメントからのムーラ・アーモンドの買収)が1件含まれている。
- この期間におけるディール・マルチプルの限定的な開示は、IMディール・マルチプルを前述のパリュエーション・マルチプルと比較する能力を制限する。
- 含まれている期間の注目すべきオーストラリアのIM案件は次の通り:
 - BGHキャピタルは、オーストラリアの代表的な2つの事業のさらなる成長を支援するため、ローレント・ハゼーデンの養鶏場に戦略的投資を行った(取引額は非公開)。
 - ワカリ・アセット・マネジメントとエンデバー・グループがタスマニアのワイナリー Joseph Chromy Winesを\$55mで買収。
 - ラガーナ・ベイは、コフィン・ベイに本拠を置くオイスター・メーカー、エンジェル・シーフード・ホールディングスの残り70%を\$33mで取得。
 - リバプール・パートナーズ・グループは、2つの別々のコーヒー事業(パドレ・コーヒーとセブンマイルズ・コーヒー・ロースター)の株式の過半数を、未公表の金額で買収している。
 - ロック・パートナーズは2020年に買収した後、エメラルド・グレインから非開示の金額で撤退した。売却時点で、エメラルド・グレインの純資産は\$45mと報告されていた。
- 世界的な不確実性と世界的な取引量の減少にもかかわらず、IMのディール数は増加し、PE投資の分散効果が強調された。



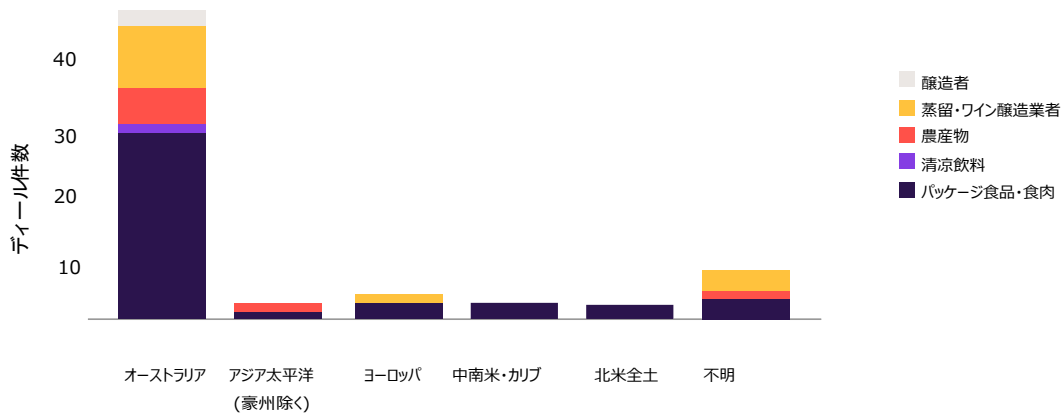
オーストラリア資産の買い手：地域別

地域	当期		前期	
	案件数	%	案件数	%
アフリカ・中近東	-	-	2	0
アジア太平洋バシフィック(オーストラリア除く)	2	3	44	7
ヨーロッパ	4	6	25	4
ラテンアメリカとカリブ海諸国	2	3	1	0
北米全土	2	3	28	5
合計(オーストラリア除く)	10	15	100	17
オーストラリア	49	73	412	70
未公開買主地域	8	12	77	13
総件数	67	100	589	100





オーストラリア資産の買手(サブセクター分割)



オーストラリアは、今期の案件の73%が現地で買収されており、オーストラリア国内Ag・F&B市場における最大のプレイヤーであり続けている。

しかし、オーストラリアの買収企業と上場しているいくつかのオーストラリアの案件は、カナダの海産食品生産会社クーク社、ブラジルのタンパク大手JBSやミネルパ・フーズなどの大規模な外資系親会社の子会社、あるいは、米国やカナダの退職年金基金などの外国人投資家を中心としたファンドを持つオーストラリアのIMの子会社であった。

オーストラリアAg・F&B資産に対する世界的な投資という点では、アジア太平洋地域は米国とカナダが次いで最大の海外投資家であり続けている。

ラテンアメリカ・カリブ海地域では、ブラジルのタンパク大手であるJBSとミネルパ・フーズdsが関与する2件の大型案件があったため、長期平均と比較すると、今期はこの地域が大幅に拡大した。

グローバル案件・取引マルチプル

評価マルチプル：サブセクター別

取引マルチプル：サブセクター別

当期

サブセクター	成約数	開示されている マルチプル	セクター%	EBITDA倍率		
				中央値	最小	最大
農産物	234	3	16	10.1x	10.1x	20.6x
醸造者	63	2	4	10.2x	8.8x	11.7x
蒸留・ワイン醸造業者	152	7	10	9.9x	7.8x	26.4x
パッケージ食品・食肉	941	31	64	9.4x	3x	135.3x
清涼飲料	76	-	5	-	-	-
中央値(全体)				9.9x		
合計	1,466	43	100			

過去の期間

サブセクター	成約数	開示されている マルチプル	セクター%	EBITDA倍率		
				中央値	最小	最大
農産物	1,691	44	15	9.0x	0.6x	104.3x
醸造者	462	22	4	11.0x	8.7x	43.6x
蒸留・ワイン醸造業者	1,264	13	11	14.5x	10.6x	61.1x
パッケージ食品・食肉	7,610	277	66	10.0x	0.1x	142x
清涼飲料	539	26	5	9.6x	5.9x	27.1x
中央値(全体)				10.1x		
合計	11,566	382	100			

取引マルチプル：業種別（上場企業）

サブセクター	会社数	売上高 中央値	EV/EBITDAマルチプル 中央値					
		2022年12月 (A \$m)	2022年 12月	2021年 12月	2020年 12月	2019年 12月	2018年 12月	2017年 12月
パッケージ食品・食肉	766	463	12.0x	12.3x	10.4x	11.0x	11.3x	12.4x
農産物	159	343	11.6x	12.4x	10.7x	12.7x	12.4x	13.7x
蒸留・ワイン醸造業者	84	456	17.8x	20.6x	22.3x	15.9x	13.1x	18.2x
醸造者	39	1,323	12.0x	15.3x	18.2x	13.8x	12.2x	14.6x
清涼飲料	44	713	11.4x	14.8x	14.3x	12.6x	13.1x	14.4x
中央値(全体)		462	12.3x	12.9x	11.2x	11.9x	11.6x	13.1x
合計	1,092							

○ 成約した1,466件のうち、43件はマルチプルを開示しており、現在の保有期間の中央値は9.9xで、過去の期間の中央値10.1xをわずかに下回った。

○ 2021年と2022年12月31日現在のマルチプルの中央値は、過去3年間の中央値を回った。

特にパッケージ食品・食肉サブセクターのマルチプルが力強い伸びを示した。

これは、パンデミックの影響による下落からサブセクターがほぼ回復し、多くの場合コロナ前の値を上回ったことを示している。

○ 市場の全般的な軟化は過去12ヶ月の間にすべてのサブセクターで起こっており、ソフトドリンク、醸造者、蒸留・ワイン醸造業者のサブセクターでマルチプルの最大の低下が生じている。

○ 蒸留・ワイン醸造業者サブセクターのマルチプルは、サプライチェーンとインフレ圧力によりコストが増加した結果、歴史的に非常に高いマルチプルを下回っていた。

評価マルチプル：地域別

取引マルチプル：地域別

当期

サブセクター	成約案件数	開示されている マルチプル	地域構成 %	EBITDAマルチプル 中央値	最小	最大
アジア太平洋	228	11	16%	7.8x	4.1x	135.3x
ヨーロッパ	591	17	40%	9.6x	3.0x	35.8x
北米全土	529	9	36%	12.6x	4.2x	39.6x
ラテンアメリカ・カリブ海諸国	71	2	5%	9.1x	7.8x	10.5x
アフリカ・中東	47	4	3%	11.4x	6.3x	17.1x
中央値(全体)				9.9x		
合計	1,466	43	100%			

前期

サブセクター	成約案件数	開示されている マルチプル	地域構成 %	EBITDAマルチプル 中央値	最小	最大
アジア太平洋	2,187	112	19%	9.3x	0.6x	128.8x
ヨーロッパ	4,830	127	42%	9.5x	0.1x	106.7x
北米全土	3,393	102	29%	11.1x	2.7x	82.9x
ラテンアメリカとカリブ海諸国	731	20	6%	10.3x	0.3x	31x
アフリカ・中東	425	21	4%	7.2x	2.7x	142x
中央値(全体)				10.1x		
合計	11,566	382	100%			

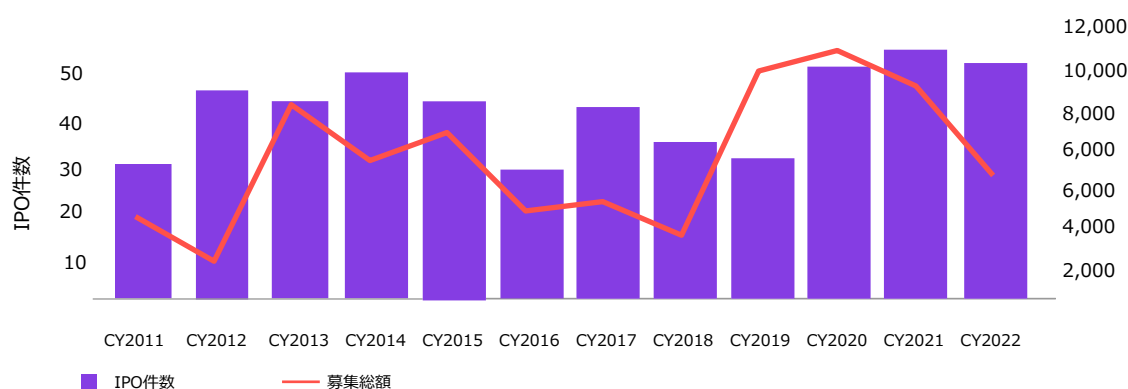
取引マルチプル：地域別（上場企業）

サブセクター	会社数	売上高の中央値		EV/EBITDAマルチプルの中央値				
		2022年12月 (A\$m)	2022年	2021年	2020年	2019年	2018年	2017年
アジア太平洋	809	363	13.0x	13.1x	10.9x	11.5x	11.8x	13.5x
ヨーロッパ	158	706	9.4x	11.8x	11.8x	11.5x	10.4x	11.7x
北米全土	80	2,289	16.2x	17.6x	13.8x	15.6x	13.8x	13.9x
ラテンアメリカ・カリブ海諸国	39	1,752	8.2x	9.3x	9.0x	10.5x	11.2x	10.5x
アフリカ・中東	6	850	8.7x	9.0x	7.8x	10.4x	11.7x	10.4x
中央値(全体)		462	12.3x	12.9x	11.2x	11.9x	11.6x	13.1x
合計	1,092							

- アジア太平洋地域の黒字上場企業は、同セクターの世界の上場企業 1,092社のうち74%を占め、その数は中国、インド、日本が主導している。
- このうち21社はオーストラリア証券取引所(ASX)に上場されており、2022年12月31日現在のマルチプル中央値14.2 xは世界全体の12.3 xとアジア太平洋地域の13.0 xを上回った。
- 米国・カナダの地域では、売上高の中央値とマルチプルが最も高かった。この地域の80社は、高いマルチプルで取引されており、地域内の上場企業の売上高の中央値が \$ 2.29bと高額であることからわかるように、この地域から運営されている大規模なAg・F&Bブランド、流通会社のかなりの額を代表するものである。

新規株式公開（IPO）活動

グローバルIPOとオファー額



当期グローバルIPO：地域別内訳

地域	IPO数	オファー金額 (A\$m)	総額に占める割合	平均値動き%
アジア・太平洋	56	6,417	74%	27%
ヨーロッパ	7	909	11%	(52%)
ラテンアメリカ・カリブ海諸国	2	348	4%	129%
北米全土	8	980	11%	(38%)
合計	73	8,654	100%	

当期のグローバルIPO：サブセクター別

サブセクター	IPO数	オファー金額 (A\$m)	総額に占める割合	平均値動き%
農産物	13	990	11%	38%
醸造者	1	88	1%	2%
蒸留・ワイン醸造業者	4	383	4%	-63%
パッケージ食品・食肉	52	6,692	77%	17%
清涼飲料	3	501	6%	-4%
合計	73	8,654	100%	

当期グローバルIPO：アジア太平洋地域


国	IPO数	オファー金額 (A\$m)	総額に占める 割合	平均値動き%	IPO数
インド	10	871	14%	52%	18%
中国	16	2,658	41%	43%	29%
オーストラリア	2	38	1%	-67%	4%
インドネシア	17	700	11%	17%	30%
日本	3	176	3%	22%	5%
タイ	8	1,975	31%	11%	14%
合計	56	6,417	100%		100%


今期グローバルIPO：オファー額別


オファー額範囲	IPO数	オファー額 (A\$m)	総額に占める 割合	平均値動き%
1000万ドル未満	21	97	1%	22%
1000万～5000万ドルの間	15	405	5%	(2%)
5000万～1億ドルの間	15	1,115	13%	27%
1億～2億ドルの間	12	1,849	21%	32%
2億～5億ドルの間	5	1,522	18%	(5%)
5億～10億ドルの間	5	3,666	42%	(19%)
合計	73	8,654	100%	


- アジア太平洋地域は、Ag・F&B業界における世界的なIPO全体の74%を占め、IPO活動を独占した。
- パッケージ食品・食肉は、IPO活動におけるサブセクターで最も目立ったものであり、調達総額の77%を占め、上場日から2022年12月31日までの間の平均価格の動きは17%であり、サブセクターにとっては強い追い風があることを示している。
- オーストラリアのIPO市場は、Ag・F&B業界の2つのIPOだけがこの時期にやや沈静化した。
- 中国は高水準のIPO活動を継続した。
- しかし、インド、インドネシア、タイからの活動の増加が加わったことで、いずれも歴史的な時期に比べてIPO活動を増やしており、これらの市場におけるAg・F&B企業の力強い成長を意味している。


グローバルIPO上位10銘柄


1	発行体:	アイテル (SET:ITC)
	国:	タイ
	産業:	パッケージ食品・食肉
	提供日:	2022年12月8日
	提供・サイズ (A\$m):	900.72
	IPO価格(A\$):	6.82
	2022年12月の価格 (A\$):	1.28
	価格変更:	(81%)
	説明:	アイテルは、子会社とともに、水産食品缶詰及び動物用飼料の製造・販売・輸出を行っている。
		


2	発行体:	山東山陽バイオテクノロジー (SZSE:301206)
	国:	中国
	産業:	パッケージ食品 食肉
	提供日:	2022年1月28日
	提供規模 (A\$m):	828.46
	IPO価格(A\$):	24.57
	2022年12月の価格 (A\$):	8.32
	価格変更:	(66%)
	説明:	山東山陽バイオテクノロジーは中国でR&D、生産・販売、エリトールの販売と複合砂糖を扱っている。
		

3	発行体:	ベタグロ (SET:BTG)
	国:	タイ
	産業:	パッケージ食品・食肉
	提供日:	2022年11月1日
	提供・サイズ(A\$m):	720.03
	IPO価格(A\$):	3.63
	2022年12月の価格 (A\$):	1.45
	価格変更:	(60%)
	説明:	ベタグロは、タイ、東南アジア、その他のアジア諸国、および海外において、飼料・健康食品の製造・販売を行っている。
		


4	発行体:	アダニ・ウィルマー (NSEI:AWL)
	国:	インド
	産業:	パッケージ食品・食肉
	提供日:	2022年2月1日
	提供・サイズ (A\$m):	676.45
	IPO価格(A\$):	4.45
	2022年12月の価格 (A\$):	10.98
	価格変更:	147%
	説明:	回転の速い消費財(FMCG)食品会社のアダニ・ウィルマーは、インドでキッチン商品を提供している。大豆、パーム、ヒマワリ、米のふすま、芥子、グランドナッツ、綿実、混合油などの製造・精製・販売、工業用マーガリン、ベーカリーのショートニング、焼成品のバナスタティなどの特殊油脂; アイスクリームや菓子用のラウリン脂肪を扱っている。
		

5	発行体:	ドール (NYSE:DOLE)
	国:	アイルランド
	産業:	パッケージ食品・食肉
	提供日:	2021年7月29日
	提供・サイズ (A\$m):	540.44
	IPO価格 (A\$):	21.62
	2022年12月の価格 (A\$):	14.20
	価格変更:	(34%)
	説明:	ドールは、世界中で生鮮青果物の調達、加工、販売、流通を行っている。
		

6	発行体:	ソボス・ブランド (NasdaqGS:SOVO)
	国:	米国
	産業:	パッケージ食品・食肉
	提供日:	2021年9月22日
	提供・サイズ(A\$m):	385.60
	IPO価格(A\$):	16.53
	2022年12月の価格 (A\$):	21.14
	価格変更:	28%
	説明:	ソボス・ブランドは、子会社を通じて、米国で消費者食品を製造・販売している。同社は、「ディナ&ソース」と「朝食&スナック」の2つのセグメントで事業を展開している。
		

7 	発行体:	Cisarua Mountain Dairy (IDX:CMRY)
	国:	インドネシア
	産業:	パッケージ食品・食肉
	提供日:	2021年12月2日
	提供・サイズ (A\$m):	358.21
	IPO価格(A\$):	0.31
	2022年12月の価格 (A\$):	0.40
	価格変更:	32%
	説明:	Cisarua Mountain Dairyは、インドネシアで乳製品および消費者向け製品の製造・販売を行っている。

8 	発行体:	Três Tentos Agroindustrial (BOVESP:TTEN3)
	国:	ブラジル
	産業:	農産物
	提供日:	2021年7月12日
	提供・サイズ (A\$m):	345.39
	IPO価格(A\$):	3.15
	2022年12月の価格 (A\$):	2.59
	価格変更:	(18%)
	説明:	TrEMES Tentos Agroindustrialは種子、肥料、作物保護製品を提供している。また、動物用飼料用大豆ミールの提供、大豆からのバイオディーゼルの生産、作物コンサルタント業務も行っている。

9 	発行体:	ビタ・ココ (NasdaqGS:COCO)
	国:	米国
	産業:	清涼飲料
	提供日:	2021年10月20日
	提供・サイズ (A\$m):	229.60
	IPO価格(A\$):	19.97
	2022年12月の価格 (A\$):	20.33
	価格変更:	2%
	説明:	ビタ・ココは、米国、カナダ、ヨーロッパ、中東およびアジア太平洋地域において、ココナッツ水製品を「Vita Coco」というブランド名で開発、販売、販売している。

10 	発行体:	ゼビアPBC (NYSE:ZVIA)
	国:	米国
	産業:	清涼飲料
	提供日:	2021年7月22日
	提供・サイズ (A\$m):	203.23
	IPO価格(A\$):	18.99
	2022年12月の価格 (A\$):	6.02
	価格変更:	(68%)
	説明:	飲料会社ゼビアPBCは、米国・カナダにおいて、各種炭酸飲料および非炭酸飲料の開発、販売、販売および流通を行っている。

- 上位10社のIPOのうち7社は、パッケージ食品・飲料企業であった。これからの企業は、製品ライフサイクルの消費者の最終段階で、ブランド消費者製品を提供することにより大規模な事業を達成する能力を示した。
- 前ページで述べたように、アジアの新興市場はIPO数の増加の原動力となっており、2011年以降の世界のIPOの50%以上、2022暦年の世界のIPOの80%以上に貢献している。
- タイ、中国、インドは今期最大数のIPOを行い、大規模なパッケージ食品メーカーや流通業者が依然として業界で果たさなければならない重要な役割を示した。
- 上位10件の取引について、上場日から2022年12月31日までの価格変化は様々である。たとえば、加工・流通業界に上場している上位3社では、コスト・インフレの圧力により、この期間の価値が大幅に減少した。

オーストラリアのIPO

1	発行体:	イースト33 (ASX:E33)	2	発行体:	カタロノ・シーフード (ASX:CSF)
	国:	オーストラリア		国:	オーストラリア
	産業:	パッケージ食品・食肉		産業:	パッケージ食品・食肉
	提供日:	2021年7月26日		提供日:	2022年3月9日
	提供・サイズ (A\$m):	32		提供・サイズ (A\$m):	6
	IPO価格(A\$):	0.20		IPO価格(A\$):	0.20
	2022年12月の価格 (A\$):	0.04		2022年12月の価格 (A\$):	0.09
	価格変更:	(80%)		価格変更:	(54%)
	説明:	イースト33はオーストラリアでロックカキを生産、加工、供給している。同社の事業セグメントは、「オイスターファーム事業」、「流通事業」、「その他の事業」の3つで構成されている。 イースト33は2019年に設立され、オーストラリアのタンカリー（NSW州）に拠点を置いている。		説明:	カタロノ・シーフードは、西豪州で水産物の加工・卸・小売・輸出を行っている。漁業、養殖業、小売業、外食産業などにサービスを提供している。 1955年に設立され、オーストラリアのバースに拠点を置いている。

- 当期のオーストラリアのAg・F&BのIPO2件はいずれも海産食品加工業者/生産者であり、世界の食糧生産と安全保障における養殖と海産物の重要な役割を強調した。
- 両社は、ハイパーインフレーションと金利上昇に関する株主の懸念のため、\$40m以下の規模の小規模企業の多くが共通の傾向であるとして、上場価格が大幅に下がってきた。





世界市場の視点



アメリカ:

「Ag・F&Bスペースではかなりの出来高を見てきたが、現在の世界的な地政学的状況や国内の金利や銀行セクターを取り巻く不確実性を考慮すると、ディール出来高には圧力がかかりそうである。」

GT米国のパートナー、Bob Hersh



イギリス:

「データは、英国の食品・飲料セクターにおけるM&Aが、世界規模で比較的高いままであることを示していると言えます。」

これは、M&A市場の成熟と、イギリスのF&B業界における統合のための特定の推進力、例えば、小規模企業のイノベーション、セクターの大部分の細分化、街角の食料品店や在宅オペレーターからの価格に対する継続的な圧力を考慮した場合のシナジーと規模の経済性を見出す必要性、によって推進されていることが分かります。

対象期間を通じてイギリスにおける英国の取引量は大きく変動しており、初期の部分はコロナ影響のキャッチアップに支えられ、2022年第1～3四半期は歴史的な低水準でした。これは、食料インフレ率が20%を超えるなど、イギリスの業界に波及する様々な逆風のためでした。

「インベストメント・マネージャー」はこの期間も活発でしたが、初期段階の工場ベースの「低・無酒」ブランドか、購入・構築戦略のいずれかに焦点を当てる傾向がありました。2022年の第4四半期は、M&A活動が回復し始め、2023年まで続いています。予想外のマクロ・ショックがなければ、2023年の残りの期間を通じて、ポラリティの低下とIM活動の活発化を続ける重要な一環になると予想しています」

GT英国のパートナー、Trefor Griffith



インド:

「インドのAg・F&B業界は、過去数年間に力強い成長と発展を見せており、これは、今期の世界のデール取引額ランキング9位が過去のランキングである14位を大幅に上回ったことにも表れています。

アジア太平洋地域では、今期の同地域の案件数の15%をインドが占め、オーストラリア以外のアジア太平洋諸国の大半を占めました。

インド・オーストラリア経済協力貿易協定の発効は、農産品の拡大、近代化、気候の回復力、収穫後の技術の革新を促進する相互の優遇的アクセスをもたらすことで、インド経済とそのAg・F&B業界に大きな前向きな推進力となるでしょう。この協定の正式化は、協力の明るい展望を描き、インド・オーストラリアのAg・F&B業界の未来を牽引するでしょう。」

GTインドのパートナー、Chirag Jain



中国:

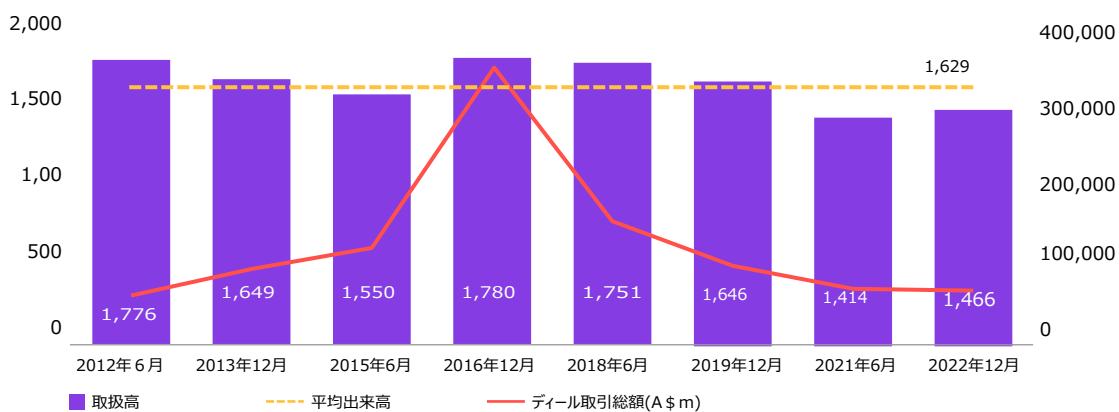
「中国では、継続的な消費のアップグレードが食品・飲料セクターの大きな成長ポテンシャルを発信しています。しかしながら、2021年と比較すると、中国の食品・飲料セクターにおける取引額と金額は、コロナの悪影響により2022年に減少しました。2023年には、より多くの取引が成立すると予想されています。加えて、最近では、香港に上場することが比較的容易であるとして、香港に上場することを検討している食品・飲料企業が増えています。」

GT中国のパートナー、Jy Wu

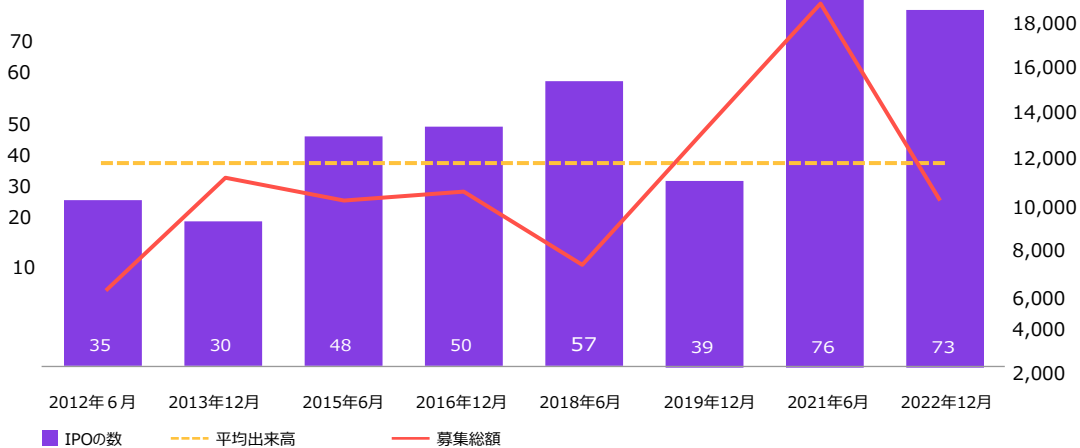
12年間の遡及：グローバルAg・F&B ディールの概要

GTオーストラリアの「アグリビジネス・F&BDealtracker」の第7版では、当社の初版にさかのぼるデータをもとに、取引量、価値、IPO活動を反映させている。このデータは、2011年1月1日から2022年12月31日までの情報を捕捉している。

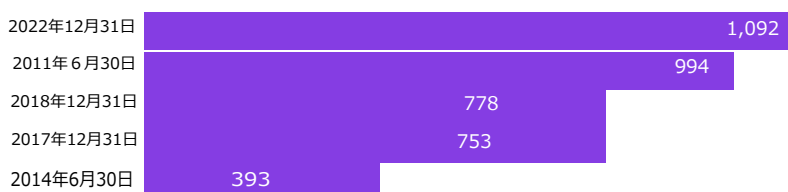
世界のM&A金額と18ヶ月間の総額



世界のIPO値と18か月ごとの合計値



上場黒字会社



本レポートの前半のM&A件数とIPOデータは、12年間の全体的な傾向を常に追跡しているとは限らず、IPO活動が記録的な高水準にある一方で、最近の期間ではディール活動が尾を引かたちとなっている。

全体としては、M&A額が長期平均を下回る水準にあるにもかかわらず、M&A額は依然として堅調であり、良質な資産が強力な売却価値を達成していることがわかる。

ディール数・金額

ディール数は、2015年7月から2018年12月までの2つのAg・F&B Dealtrackersを対象とする3年間でピークに達した。それ以来、地政学的緊張の高まり、世界的なパンデミック、コスト・インフレが重なり、業界の一部に対する課題とリスクが増大し、同セクターの様々な分野への投資意欲が低下している。

ディール総額は比較的一貫しており(18ヶ月あたり\$1,000前後)、要因であるアウトライアーは2016年12月31日までの期間であり、遡及期間中の最大の取引のうち2件はSABミラーの\$1,500億の売却とクラフト・フーズの\$680億の売却であった。

パッケージ食品&食肉は、遡及期間にわたり、Ag・F&B Dealtrackersの各々のM&A案件数と金額で一貫して最強のサブセクターであった。その中でも、2015年7月のクラフト・フーズのクラフト・ハイツへの売却額は\$68bを超え、パッケージ食品・食肉のサブセクターの最大規模となった。

ビール会社SABミラーをビール大手のアンハイザー・ブッシュに2016年に\$150億以上で売却したことは、遡及期間にわたって上位10社の案件で大きな特徴となっており、金額面では際立った取引となっている。ビール会社は近年市場で数々の痛みを感じており、このサブセクターではいくつかの苦痛を抱えている。

遡及期間におけるオーストラリアの主要案件には以下が含まれる:



IPOの出来高と金額

IPOの出来高と金額は過去12年間で増加しており、アジアが最も活発な地域で、中国(33%)、インド(14%)、インドネシア(12%)の3カ国からの全世界のIPOの50%以上を占めている。

アジアは過去3年間、IPOの増加の主な原動力となっており、上場企業の大半は長期保存食品の大規模包装・加工施設を持つ企業である。

オーストラリアのIPO市場は遡及的にも堅調に推移しており、現地取引所での世界のIPOの8%が米国(7%)をわずかに上回っているが、それぞれのAg・F&B市場の規模には大きな差がある。

収益性の高い上場企業の数、遡及期間でIPOの数を上回っており、上場企業は、Ag・F&B企業、市場のより大きな成熟度と持続可能性を示していることを示している。




GTオーストラリアについて

グラント・ソントン（GT）オーストラリアは、世界有数の会計・コンサルティング会社であるGTグローバル・ネットワークのメンバー企業です。私たちのブランドは世界的に認識され、資本市場、規制当局、国際基準設定機関によって認められています。私たちは、クライアントの変化するニーズを満たすスケールを持ち合わせています。同時に、一歩先を行くために必要な俊敏性を維持しています。

当社は、価値観を核として、多様な視点を求め、必要に応じて挑戦し、ビジネスに前向きな進歩をもたらすことに従事しています。業界、ビジネスライフサイクルのステージ、市場、成長計画にかかわらず、経験豊富なプロフェッショナルは、クライアントとステークホルダーのために最善の結果を達成することに専心しています。


 **\$293m**
売上高(豪ドル)

 **165**
オーストラリアパートナー

 **\$7.2b**
世界売上高(米ドル)

 **750+**
グローバルオフィス

 **1,300+**
従業員数

 **6**
オーストラリア事業所

 **68,000+**
グローバル従業員

 **145+**
カ国

ファイナンシャル・アドバイザー（FA）

ディールのどこ位置にいても、コストを効果的に管理し、リターンを最大化することが重要です。絶えず変化する経済環境と、ディールのスピード感と複雑さを背景に、これは簡単なことではありません。

当社のFAチームは、取引または投資のすべての段階を通じてクライアントと協力し、目に見える価値を付加するソリューションを提示します。長期的な視点から、コーポレート・ガバナンスの問題などの潜在的な欠点に加え、戦略的な野心を反映した投資を含む投資機会を特定します。

チームのやることの中核を担っているのはクライアントです。つまり、私たちは、クライアントのビジネス、その目標、投資を計画している重点分野に、アプローチを合わせることを意味するのです。

業界の専門性

GTオーストラリアのアグリビジネス・F&Bチームは、ビジネスが直面する機会と問題を理解しています。

当社では、生産から加工、包装、流通、輸出、そしてそれ以降に至る食品と飲料のライフサイクルのすべての段階において、クライアントのビジネスを運営することのプレッシャーと、戦略的目標に到達するためのステップを理解するようアドバイスを提供しています。貴社のビジネスが最新の業界トレンドやイノベーションを活用できるようにポジショニングを支援し、輸出、国際貿易、M&A、サプライチェーンマネジメント、資金調達、税務、監査などに関する専門的なアドバイスを提供しています。

[詳細はこちらから](#)

[詳細はこちらから](#)



連絡先

業界リーダー

トニー・ピット

アグリビジネス・F&B業界リーダー
パートナー
T +61 3 8663 6204
E tony.pititto@au.gt.com

キャメロン・ベーコン

ファイナンシャル・アドバイザー
パートナー
T +61 3 8663 6366
E cameron.bacon@au.gt.com

荒川尚子

日豪プラクティス・リーダー
T +61 4 1758 4715
E shoko.arakawa@au.gt.com

事務所

アデレード

Grant Thornton House
Level 3, 170 Frome Street
Adelaide SA 5000
T +61 8 8372 6666

ケアンズ

Cairns Corporate Tower
Level 13, 15 Lake Street
Cairns QLD 4870
T +61 7 4046 8888

パース

Central Park, Level 43,
152-158 St George Terrace
Perth WA 6000
T +61 8 9480 2000

ブリスベン

Level 18, 145 Ann Street
Brisbane QLD 4000
T +61 7 3222 0200

メルボルン

Collins Square
Tower 5, 727 Collins Street
Melbourne VIC 3000
T +61 3 8320 2222

シドニー

Level 17, 383 Kent Street
Sydney NSW 2000
T +61 2 8297 2400



[grantthornton.com.au](https://www.grantthornton.com.au) (Link)

Grant Thornton Australia Limited ABN 41 127 556 389 ACN 127 556 389

「グラント・ソーントン」とは、グラント・ソーントのメンバー企業がそのクライアントに保証、税務、アドバイザリー・サービスを提供し、状況に応じて1社以上のメンバー企業を指すブランドのことをいう。Grant Thornton Australia Limitedは、Grant Thornton International Ltd (GTIL)のメンバー企業である。GTILとメンバー企業は世界的なパートナーシップではない。GTILと各会員企業は、別々の法的主体である。サービスは会員企業によって提供される。GTILは顧客にサービスを提供していない。

GTILとそのメンバー企業は、互いの代理人ではなく、互いに義務を負わず、互いの作為不作為に対して責任を負わない。オーストラリアの文脈においてのみ、「グラント・ソーントン」という用語の使用は、グラント・ソーントン・オーストラリア・リミテッド ABN 41 127 556 389およびそのオーストラリアの子会社および関連事業体を参照することができる。

専門職業基準法に基づき承認された制度により制限される責任。

Grant Thornton Australia Limited ABN 41 127 556 389 ACN 127 556 389 'Grant Thornton' refers to the brand under which the Grant Thornton member firms provide assurance, tax and advisory services to their clients and/or refers to one or more member firms, as the context requires. Grant Thornton Australia Limited is a member firm of Grant Thornton International Ltd (GTIL). GTIL and the member firms are not a worldwide partnership. GTIL and each member firm is a separate legal entity. Services are delivered by the member firms. GTIL does not provide services to clients. GTIL and its member firms are not agents of, and do not obligate one another and are not liable for one another's acts or omissions. In the Australian context only, the use of the term 'Grant Thornton' may refer to Grant Thornton Australia Limited ABN 41 127 556 389 and its Australian subsidiaries and related entities. Liability limited by a scheme approved under Professional Standards Legislation.